

13-10 竹材加工素材（集成材、積層材、圧延材等） の製品利用化研究

大西 洋 末 吉 光 雄
菊池 元 堀 切 政 幸

1. 目的

標記材利用による高品質な手許家具類の試作を通して利用化の拡大を図る。

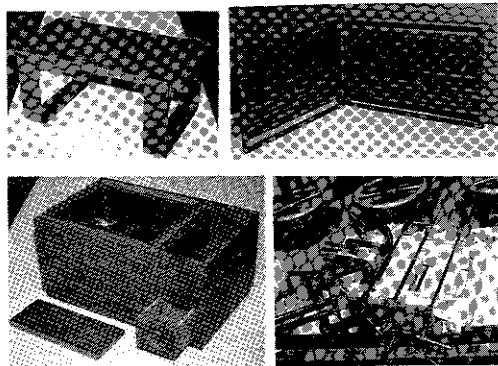
2. 概要

当県の竹製品は従来原竹利用と単純加工が主流であるが県産品の商品構成群の拡大を図り市場開拓の一助とするため手許サイズ級の家具類の分野までレパートリーを拡げ試作品を通して講習会等では製品開発の多様性の指導を行い併せて技術面のレベルアップを考慮したものである。

・塗装

油変性ウレタン塗料にダークオーク（染料系着色剤）を5%混入して拭きあげる。これは作業性と媒竹の感じを一段と引き立たせるために施した。被膜としては、ポリウレタンサンディングシーラーを1回塗布後に研磨して、3分艶のクリヤーをうすめに2回スプレー塗装を行った。

塗装法は、天板への耐久性をもたせるために、中塗装は特殊ポリウレタン擁脂（ポリエステルとポリウレタン樹脂の中間性能塗料）を用いて、竹口面の鏡面処理を充分に行って、目やせ現象を防止した。
製品試作例



3. 経過

試作対象品及び仕様

1. ……風呂先屏風3点セット（大中小）
 - ・単化竹利用、スクリーン部分にス、竹利用
 - ・R面加工…高周波利用
2. ……成型ティーテーブル（和洋両面、ノックダウン式）
 - ・テーブル面材…積層ブロック材を利用
 - ・脚…和用両用として薄板（圧延材）の高周波整形加工
 - ・サイズ…和洋両用を考慮、380mmh
 - ・塗装…ウレタン仕上り
3. ……小火鉢（調度性装飾性を中心にまとめ）
 - ・使用材…積層ブロック材使用
 - ・塗装…ウレタンうるし掛け

4. 成果

手許級家具類の開発仕上げとしては所期の目的を表現出来たと考える。作品は56年度工芸展、第33回全国試験所作品展に出品しかなりの注目をあつめたもので特に全国的に竹材産出県にふさわしい製品開発として好評を得ている。

試作品を通しての改良点は次のとおり、

・コスト高

これは素材コストが高い為当然であるが目下場で開発中の新材料開発等の結果が効果的に結びつけば品質についての問題はそれ程ないので新たな製品分野に活路を見い出せるものと考ええる。

・表面処理（塗装）について

竹材の材質が冷たい感じを与えるので着色の方法を改良しなければならないと考える。

なおこれは竹製品研究会（宮之城地区、鹿児島市内）においても発表済みのものであり業界にはそれなりの参考点を提示し得ている。